

上海語と粵語における再述代名詞と非現実ムード

小嶋 美由紀

要旨

本文试图阐明上海話と广东話の処置句、話題句里出現の續指代詞“伊”及“佢”の功能。以往的研究既已指出、包含續指代詞の処置式句子只能表达非现实(irrealis)事件、但却没有解释其制约原因。笔者认为设置續指代詞的主要目的是表达说话人或动作者对某一个未实现的事件要实现的强烈意志。本文讨论処置意义与主语具有意志性的关系、并明确说话人选择續指代詞の动因。

キーワード：再述代名詞 (resumptive pronoun)、非現実ムード、意図性、上海語、粵語

1. はじめに

中国諸方言である上海語と粵語には、口語において余剰的な3人称代名詞が動詞述語の後に現れる現象がある¹⁾。例(1a)の“伊”は上海語の、例(2a)の“佢”は粵語の余剰的な3人称代名詞である。(1b)、(2b)から明らかのように、これらの3人称代名詞は文の意味を変えることなく省略でき、文成立上必要とされない。

- (1) [上] a. 快 点 拿 衣装 汰 脱 伊!
quick a:little DIS clothes wash-COMPL²⁾ 3SG
‘早く服を洗ってしまいなさい!’

- b. 快 点 拿 衣装 汰 脱!
quick a:little DIS clothes wash-COMPL
‘早く服を洗ってしまいなさい!’

- (2) [粵] a. 将 啲 凳 搬 晒 佢 上 嚟。
DIS CL_{PL} stool carry-COMPL 3SG up come
‘椅子を全部運んであがってきて’ ([Mai] 麦耘 2003)

- b. 将 啲 凳 搬 晒 上 嚟。
DIS CL_{PL} stool carry-COMPL up come
‘椅子を全部運んであがってきて’

このような余剰的3人称代名詞は、処置マーカ―を用いて目的語を動詞述語に前置させた(1)、(2)のような処置構文³⁾や、文脈の中で既に話題となっている動作対象を主題(topic)として文頭に置いた主題化文に多く見られる⁴⁾。このことから、徐烈炯・邵敬敏([Xu & Shao] 1998)や李新魁等([Li, 他] 1995)を初めとする先行研究の多くは、このような3人称代名詞を、目的語が移動したことによって空いた動詞述語の後のスロットに挿入された要素と捉え、動作対象を再度指示し直した再述代名詞(resumptive pronoun)であるとみなしている⁵⁾。例えば、例(1a)の“伊”は処置マーカ―“拿”でマークされた目的語“衣装”(服)を先行詞とした再述代名詞であると考えられる。粵語の例(3)においては、目的語“啲衫”(これらの服)が動詞述語“洗完”(洗い終わる)に前置されていないため、“佢”は空いたスロットを埋めているとは考えられない。しかし、このような“佢”も再述代名詞であるとみなされることが一般的である⁶⁾。

- (3) [粵] 快 啲 洗 完 啲 衫 佢。
 quick a:little wash-finish CL_{PL} clothes 3SG
 ‘早く服を洗ってしまいなさい!’

上述の(1a)、(2a)、(3)はすべて事物を先行詞とした再述代名詞を含む例である。これらの例では先行詞が複数であるにも関わらず、再述代名詞が単数形であるという数の不一致が見られる。この数の不一致は、3人称代名詞の性質による。上海語や粵語の3人称代名詞は人と事物の両方を表すことができるが、当該構文に限らず、一般的な原則として指示対象が複数の人である場合には複数形(上海語“伊拉”、粵語“佢哋”)、事物の場合には複数を指示していても単数形が用いられる⁷⁾。人を表す再述代名詞は、先行詞が複数である場合、通常複数形で表される⁸⁾。

本稿では主に上海語と粵語における、事物を先行詞とする再述代名詞の用法を考察対象とし、人を先行詞とする再述代名詞に関しては、事物を先行詞とする再述代名詞との比較の観点から、3章で取り上げることにする。上海語と粵語の再述代名詞は、生起する構文の統語的制約やその拡張用法に関して若干異なる様相を見せるものの、話し手が再述代名詞を用いる動機には共通した特徴が見られる。本稿はその動機について考察することを主な目的とする。

本稿では、上海語の例は文頭に[上]、粵語の例は[粵]と記す。例文が、先行研究からの引用である場合はその旨を付記する。それ以外のものはインフォーマントによる作例である⁹⁾。引用した例がローマ字表記である場合はそれを残し、その下に通常用いられる漢字を添えて示す。いずれの例文においても、グロス及び日本語訳は本稿筆者によるものである。

2. 再述代名詞が用いられる文の特徴

2章では、上海語と粵語の再述代名詞を含む文の、ムード特徴（2. 1）と主語（動作主）の意図性（2. 2）に関する先行研究を紹介し、問題点を指摘する。

2. 1 ムード特徴について

徐烈炯・邵敬敏（[Xu & Shao] 1998:84）は、上海語の再述代名詞が命令（例4）や意志表明、仮定（例5）という未実現の事態を表す文で用いられ、過去の事態を表す陳述文（例6）¹⁰⁾には生起しないことを指摘している。

- (4) [上] 明早 依 拿 迭 点 物事 掼 脱 伊。
tomorrow 2SG DIS this CL_{PL} things throw-COMPL 3SG
‘明日、これらの物を捨てなさい’（[Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998: 84 (51)）

- (5) [上] 假使 昨日 依 拿 迭 点 物事 掼 脱 伊
if yesterday 2SG DIS this CL_{PL} things throw-COMPL 3SG
格 闲话, 今早 搬家 就 轻松 勒。
NML-word today move then relax PRT
‘もし昨日あなたがこれらのものを捨ててしまっていたら、今日の引越しは楽だったのに。’
（[Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:85 (55)）

- (6) [上] *昨日 他 拿 迭 点 物事 掼 脱 伊 勒。
yesterday 3SG DIS this CL_{PL} things throw-COMPL 3SG PRT
‘昨日、彼はこれらの物を捨てた’

例（6）から再述代名詞“伊”を除いた例（7）が已然文として成立することから、再述代名詞の有無が已然文に生起できるかどうかに関わっていることがわかる。

- (7) [上] 昨日 他 拿 迭 点 物事 掼 脱 勒。
yesterday 3SG DIS this CL_{PL} things throw-COMPL PRT
‘昨日、彼はこれらの物を捨てた’

粵語の再述代名詞にも同様の制約が観察される。Man（1998:53）は、動作の完了、進行、経験を表す陳述文には再述代名詞が生起できず（例8）、命令、疑問、仮定、条件といった非叙実的（non-asserted）な事態を表す文（または節）（例9）で用いられると指摘している¹¹⁾。

- (8) [粵] A-Fai tai-zo /-gan/-gwo bun syu *KEOI
 阿輝 睇咗/緊/過 本 書 *佢。
A-Fai read-PERF/PROG/EXP CL book 3SG
 ‘A-Fai (has) read/ is reading/has once read that book’ (Man 1998:54 (7))
 ‘ファイはその本を読んだ／読んでいる／かつて読んだことがある’
- (9) [粵] (jyugwo) nei jau hak dou mun KEOI,
 如果 你 油 黑 度 門 佢,
 if 2SG paint black CL door 3SG
- fong nei fuk waa zau wui hou can gaa laa
 放 呢 幅 畫 就 會 好 襯 [口架] 喇。
 put this CL picture then likely.to very match PRT PRT_{CS}
 ‘if you paint the door black, it will go very well with this picture’ (Man 1998:54 (11))
 ‘もしあなたがこのドアを黒く塗ったら、この絵にとってもよく合うだろう’

これらの例から明らかなように、再述代名詞が用いられる文が表すのは「未実現の」「非叙実的な」事態、すなわち非現実ムード (irrealis mood) の事態に限定される。

2. 2 主語の意図性について

徐烈炯・邵敬敏 ([Xu & Shao] 1998:85) は、上海語の再述代名詞を含む文の主語（動作主）は意志を持つものでなければならない、“台風”（台風）のように意志を持たない自然現象を主語に用いることはできないという。

- (10) [上] *台风 会得 拿 迭 幢 房子 吹 脱 伊。
 typhoon likely.to DIS this CL house blow-COMPL 3SG
 ‘台風はこの家を吹き飛ばしてしまうだろう’
 ([Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:85 (58))

例 (10) から再述代名詞“伊”を除いた処置構文 (11) が成立することから、主語が意志をもったものでなければならないという制約は、処置構文にではなく、再述代名詞に起因する制約であることがわかる。

- (11) (=10') [上] 台风 会得 拿 迭 幢 房子 吹 脱。
 typhoon likely.to DIS this CL house blow-COMPL
 ‘台風はこの家を吹き飛ばしてしまうだろう’

粵語も上海語同様、主語が無意志である場合再述代名詞が用いられず (例 12)、再述代名詞を除くと無意志主語でも成立する (例 13)。

- (12) [粵] *台風 會 吹 冧 間 屋 佢。
 typhoon likely.to blow down CL house 3SG
 ‘台風はこの家を吹き飛ばすだろう’

- (13) (=12') [粵] 台風 會 吹 冧 間 屋。
 typhoon likely.to blow down CL house
 ‘台風はこの家を吹き飛ばすだろう’

先行研究が指摘する再述代名詞を含む文の2つの特徴、すなわち非現実ムード性と主語の意図性は、上海語と粵語に共通する特徴である。しかし、再述代名詞の有無とムード制約、主語の意図性との相関関係については論じられていない。更に、再述代名詞を含む文は含まないものと比べて処置や命令の語気が強まるという語用論的效果があると指摘されているものの(上海語: [Daxi] 大西 2001:118、粵語: 李新魁等 ([Li 他] 1995:572、[Zhang] 張双庆 1999:347)、再述代名詞の有無と語用論的效果の相関関係は十分に議論されていない¹²⁾。本稿では、再述代名詞を含む文が処置や命令の意味を強めるのは、事物を指示する3人称代名詞が動詞の後の目的語に用いられることが有標であることと関係していると主張する。そして、再述代名詞を用いる目的が、動作行為達成に対する話者の強い意志を表明することにあることを示す。次章で再述代名詞を用いる動機について考察する。

3. 再述代名詞が用いられる動機

再述代名詞の先行詞が担う意味役割は、処置を受ける者・物 (disposed-of)、影響を被る者・物 (affected) が典型的である (Xu 1999:9-10)。つまり再述代名詞は、処置行為によって影響を被る動作対象の再提示である。話者は再提示によって動作対象を強調し、同時にその動作行為が他動性の高い処置行為であることも強調する。これが、先行研究が述べる「再述代名詞を含んだ文が処置の意味を強める」ことに繋がっている。これを示す根拠として、再述代名詞が3項動詞を用いた文では用いられない(上海語 (例 14) : [Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:83-84¹³⁾、粵語 (例 15) : [Mai] 麦 2003) という事実が挙げられる。

- (14) a. [上] 送 本 书 我 要 送 拔 小王。
 this CL book 1SG will send DAT Xiao-Wang
 ‘この本、私は王さんにあげたい’ ([Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:84 (49))
- b. [上] *送 本 书 我 要 送 伊 拔 小王。
 this CL book 1SG will send 3SG DAT Xiao-Wang
 ‘この本、私は王さんにあげたい’ ([Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:84 (50))

- (15) a. [粵] 將 本 書 畀 我。
 DIS CL book give 1SG
 ‘その本を私にちょうだい’
- b. [粵] *將 本 書 畀 佢 我。
 DIS CL book give 3SG 1SG
 ‘その本を私にちょうだい’

例 (14b)、(15b) が成立しない理由は、行為の影響が動作対象と受け手に分散してしまうからである。例 (14) の“送”（プレゼントする）、(15) の“畀”（あげる）という行為によって影響を被るのは、通常、動作対象である移動物よりもむしろその着点、すなわち物の受け手“小王”、“我”であると考えられるが、再述代名詞は動作対象の受影性（affectedness）を強調する機能があることから、動作対象と受け手との間で影響性が分散してしまうのである。言い換えれば、行為による影響を被る項が二つ以上存在してはならないという制約が働いている。

ここで、再述代名詞を用いる動機を更に検討するために、再述代名詞が生起する構文の特徴を考えてみたい。そもそも再述代名詞が頻繁に生起する処置構文は、「動作主が既存の対象に何らかの動作行為を加えることによって影響を与え、動作対象に状態変化を及ぼす」（[Xue] 薛凤生 1994:32）ことを意味し、主語である動作主側から事態を述べる構文である。言い換えれば、動作主が動作対象を「どうするか」「どうしたか」にフォーカスをあてる行為指向的な表現である。この、「動作主の側から事態を述べる行為指向的」という意味的特徴が再述代名詞の生起には不可決であると考えられる。なぜなら、「動作対象が状態変化を被る」ことを表す点では処置構文と共通している受動構文では、(16)、(17) が示すように再述代名詞が用いられない¹⁴⁾。それは、受動構文が「動作対象の側から事態を述べた結果指向的な表現」であり、動作対象が「どうなるか」「どうなったか」にフォーカスをあてる構文である（木村 2000:25）ことが関係している。

- (16) [上] *迭 部 脚踏车 会得 拔 偷 脱 伊 的。
 this CL_{PL} bicycle will give_{PASS} steal-COMPL 3SG PRT
 ‘この自転車は盗まれるだろう’
- (17) [粵] *啲 橘 會 畀 人 買 晒 佢。
 CL_{PL} orange will give_{PASS} people buy-COMPL 3SG
 ‘オレンジはみんな買われるだろう’

この観察から、再述代名詞の生起には行為指向性が重要な要因として関わっていることがわかる。

しかし再述代名詞が生起する条件はそれだけでは不十分で、2. 2でも述べたように、主語（動作主）の意図性が必要である。例えば、「台風が木を倒す」「風が窓を割る」と

いった自然現象を述べる文においては再述代名詞が用いられないが、それは自然現象が主語によって意図的に引き起こされる行為ではないからである。再述代名詞が生起する条件として主語の意図性が要求されるのは、再述代名詞を含む文が単に行為実現に対する話者（あるいは動作主）の願望を表すのではなく、行為実現の意図を表明することと関連する。例えば、「台風がこの木を倒して欲しい」という話者の願望を表現するのに再述代名詞は用いられないが、それは再述代名詞を用いる話者の動機が、行為実現に対する意志を表明することにあるからである。単なる願望には行為実現への努力、行動が要求されないが、意志には行為の実行や実現に対して努力をすることが求められる¹⁵⁾。行為実現に対する話者の意志が最も強く反映されているのは、話者が主語（動作主）である意志表明文である。命令文や誘いかけ文は話者以外が動作主であっても、話者が事態を制御するという点において話者の意志が反映される。再述代名詞が用いられたその他のタイプの文、例えば、過去の未実現の事態を表した文（例 5）や疑問文（例：[粵] 你想冚埋扇窗佢咩? ‘あなたはあの窓を閉めたいですか’ [Mai] 麦 2003）、また 3 人称主語文（例 18）は、いずれも処置行為の実現を話者あるいは動作主が強く望んでいる（または望んでいた）ことを表すが、これらは周延的であり、意志表明文、命令文、誘いかけ文といった事態制御文が、再述代名詞の現れる最も典型的な文である¹⁶⁾。

粵語では、再述代名詞が生起する条件には、行為指向性と主語（動作主）の意図性の他に、動詞述語の限界性（telicity）がある。具体的には、動作行為に終結点（endpoint）を与えるための動詞接辞が必要である（Man 1998:58）。例（18）では、結果補語“完”がそれに相当し、“完”を除いた例（19）は成立しない。

- (18) [粵] A-Fai soeng tai jyun bun syu KEOI.
 阿輝 想 睇 完 本 書 佢。
 A-Fai want read-finish CL book 3SG
 ‘A-Fai wants to finish reading the book.’ (Man 1998:58 (32))
 ‘ファイはその本を読み終えたいと思っている’

- (19) (=18') [粵] A-Fai soeng tai bun syu KEOI.
 *阿輝 想 睇 本 書 佢。
 A-Fai want read CL book 3SG
 ‘A-Fai wants to read the book.’ (Man 1998:58 (33))
 ‘ファイはその本を読みたいと思っている’

粵語の再述代名詞を含む文の動詞述語が限界性を持たなければならないという制約は、動作行為が単純な活動ではなく、動作対象をある結果状態にまで至らしめるという高い他動性を示唆する。動作行為の終結点／結果が明確であればあるほど、動作対象が被る影響も明確である。終結点に向かって行為をする動作主に求められるものは、強い意図性である。上海語の再述代名詞を含む文の動詞述語は、必ずしも限界性を必要とし

ないようだが、動詞は意志動詞に限られ、“知道”（知る）、“愛”（愛する）などの非意図的な行為を表す動詞とは再述代名詞が共起できない。また、再述代名詞が頻繁に用いられる処置構文に現れる動詞述語は、限界性をもつものが多い。このことから、再述代名詞は動作対象に強い影響を与える行為を表す他動性の高い動詞述語と相性がいいといえる。

以上の考察より、再述代名詞が生起する条件として、1) 行為指向性、2) 主語の意図性、3) 他動性の高さ、が求められる。したがって、再述代名詞の使用は、主語（動作主）が動作対象に強い影響を与える他動性の高い行為を実現させようとする意図を伝える手段であると言える。

ではなぜ再述代名詞が3人称代名詞に限定されるのだろうか。それは中国語の3人称代名詞の性質と関わっている。まず、中国語の3人称代名詞は事物を指示することが少ない。また3人称代名詞が事物を指示することに用いられ、その指示対象が目的語であったとしても、目的語の位置として無標である動詞の直後に生起することは非常に稀である¹⁷⁾。一方、1、2人称代名詞や人を指示する3人称代名詞にはそのような制約はなく、動詞の直後に頻繁に現れる。つまり、事物を指示する3人称代名詞が動詞の直後のスロットに生じるのは有標（marked）なのである。人を指示する3人称代名詞が再述代名詞として用いられる場合には、事物を指示する再述代名詞が生起する条件である行為指向性、主語の意図性、他動性の高さという特徴やムード制約はみられない¹⁸⁾。例えば、人を指示する再述代名詞は受動構文でも用いられ、また已然文に生起することが可能である。

- (20) [上] 李小明, 拔 阿拉 批评 勒 **伊** 几 句。
 Li-Xiaoming give PASS 1PL scold-PERF 3SG several word
 ‘李小明は私たちに叱られた’ ([Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:83 (32))

以上のことから、人を先行詞とする再述代名詞はまだ指示性を保っており、事物を先行詞とする再述代名詞が有する「話者（もしくは動作主）の強い意志を表すマーカー」としての機能は獲得していない。動詞の直後に事物を表す3人称代名詞を置くことは形式的に有標であるため、そこに有標な解釈がうまれる。再述代名詞の使用が、なぜ「話者の強い意志」を喚起するのかは興味深い問題であるが、それに関する考察は別稿に譲る。

4. 再述代名詞の拡張用法

上海語と粵語には、自動詞（非能格動詞）に3人称代名詞が後続する例がある。そして、そのような例は行為指向的であり、主語が意図性を持ち、非現実ムードの事態に限定されるという点において、再述代名詞を含む文に見られる特徴を有している。よって、

これらが再述代名詞の拡張であると考えられる。まず、上海語の例から見てみよう。

Xu (1999) は、例 (21) のように自動詞“坐”に続く 3 人称代名詞は再述代名詞ではないとしている。しかし、加納 (2008) はこのように指示対象のない“伊”を含む文も、処置構文における再述代名詞の生起条件である「未実現」「意図性」という条件を満たしており、例 (22)、(23) のような〔他動詞の重ね型 **VV** (+補語 **R**) +伊〕の拡張であると示唆している。

(23) [上] 房間 收作收作 伊。
 room clear-RPL 3SG
 ‘部屋を片付けなさい’
 (上海語、日本語訳とも加納 2008:110 より引用)

(24) (=21') [上] *侏 走 勿 動 就 坐 伊.
2SG walk-NEG-move then sit 3SG

次に粵語の例を見てみよう。粵語には、(25) のように [自動詞 V+補語 R] から成

る動詞述語に指示対象がない3人称代名詞“佢”が後続する例が多く存在する²⁰⁾。

- (25) [粵] ngo soeng tau gau KEOI
 我 想 抖 夠 佢
 1SG want rest-enough 3SG
 ‘I want to take enough rest’
 ‘私は十分に休みたい!’ (Man 1998:60 (46))

Man (1998:60) は、(25) のような例を他動詞述語文において見られる再述代名詞の拡張用法と捉えている。なぜなら、これらの例にも已然事態を述べることができないというムード制約があり (例 26)、動詞述語に結果性を付与する補語が必須であるからである (例 27)。つまり、指示対象のない“佢”を後続させる動詞が自動詞に拡張されたとしても、その述語がある程度の他動性を保証するものでなければならないことを示す²¹⁾。

- (26) (=25') [粵] *尋日 我 抖 夠 佢 喇。
 yesterday 1SG rest-enough 3SG PRT_{CS}
 ‘昨日私は十分に休んだ’ (“佢”を除いた“尋日我抖夠喇”は成立)

- (27) (=25'') [粵] *我 想 抖 佢。
 1SG want rest 3SG
 ‘私は休みたい’ (“佢”を除いた“我想抖”は成立)

動詞“抖” (休む) は、動作行為によって影響を被る動作対象の存在を必要としない行為を表す。“喊” (泣く) (例 28)、“玩” (遊ぶ) (例 29) についても同様のことがいえる。また、他動詞であっても行為の影響が動作主に跳ね返ってくる再帰的な動作行為を表す“食” (食べる) (例 30)、“喝” (飲む) (例 31) といった動詞も、指示対象のない3人称代名詞が共起しうる。

- (28) [粵] nei mai ham baau KEOI lo.
 你 咪 喊 飽 佢 囉
 2SG then cry-full 3SG PRT
 ‘You just cry as much as you like’ (Man 1998:60 (47))
 ‘存分に泣いてやれ!’

- (29) [粵] 我 想 玩 夠 佢!
 1SG want play-enough 3SG
 ‘存分に遊んでやる!’

- (30) [粵] 我 想 食 飽 佢!
 1SG want eat-full 3SG
 ‘お腹いっぱい食べてやる!’

- (31) [粵] 我 想 喝 夠 佢!
1SG want drink-enough 3SG
‘存分に飲んでやる!’

これらの例に見られる指示対象のない3人称代名詞は、行為の影響を受ける動作対象が存在しない文脈でも、話者（あるいは動作主）の行為実現に対する強い意志を表す機能を担う拡張を見せている。

5. 語用論的特徴

佐藤（2003）は上海語の再述代名詞は丁寧な依頼表現にはなじまず、目上の人や敬意を払うべき相手に対しては再述代名詞を含んだ命令文を用いることは憚られるという語用論的制約を指摘している。そしてその理由として、再述代名詞“伊”に処置の意味を強める傾向があり、中国語の依頼表現に重要とされる動作の軽減化（例えば、「ちょっと」を意味する“一下”を動詞に付加する）とは逆の方向に作用しているからだと述べている。このような理由に加えて、本稿筆者は、更に3人称代名詞の持つ語用論的なニュアンスが関わっていると考える。共通語の3人称代名詞“他”は、話し手と聞き手以外の人を指すことから、その指示対象を「その人」として排除するニュアンスを持ち（木村 1996:220）、時に話し手の無関心、対象に対する否定的、反感的な態度を表わす（太田 1958:119）。上海語や粵語の3人称代名詞も共通語の“他”と同様の否定的ニュアンスを持つため、その使用は乱暴で粗雑な印象を与える。このことから、正式な場所や目上の人を聞き手とする場面では、再述代名詞を用いた表現は不適切であると考えられる。

6. まとめ

本稿は、上海語と粵語における再述代名詞が、行為指向性、主語（動作主）の意図性、高い他動性を有する文に生起することを明らかにし、その本質的な機能が行為実現に対する話者の強い意志を表すことにあることを主張した。行為指向性、主語の意図性、高い他動性という個々の特徴は必要条件であっても十分条件ではない。この特徴のいずれが欠けても再述代名詞は生起しない。また多くの先行研究に見られる、再述代名詞を含む文が非現実ムード事態の叙述に限定されるという指摘は厳密ではない。再述代名詞は、非現実ムードの文脈でも特に、意志表明や命令、誘いかけといった行為実現に対する話者の強い意志を表す事態制御文にほぼ制限される。

再述代名詞の「話者の行為実現に対する強い意志を表すマーカー」への拡張に、指示性の喪失が関わっていると予測される。指示的な3人称代名詞が、ある一定の制約のある文（または構文）で用いられ、非指示的な用法を持つに至る拡張は、本稿の考察対象である上海語や粵語などの再述代名詞に限らない。例えば、共通語には二重目的語構文

の第1 目的語に置かれた3 人称代名詞が、構文拡張の過程で非指示化する現象がみられる(小嶋 2009)。そして興味深いことに、3 人称代名詞に指示対象がない、すなわち非指示的であると認識されると同時に、非現実ムード、特に行為実現に対する話者の強い意志を表す解釈に限定される。今後は、本稿で考察した上海語と粵語の再述代名詞に関する分析を基に²²⁾、中国語の3 人称代名詞の非指示的な用法が非現実ムードとどう関わるのかについて考察を深めたい。

註

本稿で用いるグロスの意味は、以下の通りである。

1: 1 人称、2: 2 人称、3: 3 人称、CL: 量詞(classifier)、COMPL: 完成相 (completive aspect) マーカー、DAT: 受け手マーカー、DIS: 処置マーカー(disposal object marker)、EXP: 経験相マーカー(experiential aspect marker)、NEG: 否定詞(negative marker)、PASS: 受け身マーカー(passive marker)、PERF: 完了相マーカー(perfective aspect marker)、PL: 複数(plural)、PROG: 動作行為が進行中であることを表す副詞(progressive)、PRT: 冠詞(particle)、PRTcs: 新事態の出現や変化(change of state)を表す文末助詞、RPL: 重ね型(reduplication)、SG: 単数(singular)

1) これに類似した現象は、共通語(普通话)にも見られるが、共通語よりもむしろ上海語や粵語の方が一般的であるとの指摘がある(Cheung 1992:285, Xu 1999:5)。また、再述代名詞を用いる現象は中国全土に広く見られ、西南官話に属する武漢方言や、ビン南語、客家語などで確認されている。上海語と同じ呉語に属する寧波語に関しては范可育([Fan]1988)、武漢方言については許慧(2005)、ビン南語に属する泉州方言に関しては陳法今([Chen]1992)、客家語に関しては侯小英([Hou]2007)を参照されたい。

2) 上海語の“脱”、粵語の“晒”は、「動作対象の全てを～する」という意味を付与する動詞接辞であり、Bybee et al. (1994)の言う“completive”(完成相)を表すマーカーである。グロスはCOMPLとし、“perfective”(完了相)と区別する。なお、共通語の動詞接辞“了”にも、[+消失、離脱]の意味を持つ動詞に接続し、動作対象全てに影響を与える意味を持つ場合があり、アスペクト助詞というよりもむしろ結果補語に近いことが、木村(1981)で指摘されている。

3) 中国語は、動作・行為の対象(Patient)を動詞の後に置くSVOを基本語順とする言語であるが、対象に外から何らかの処置を加え、影響を及ぼしてその状態に変化を生じさせるという意味を述べる必要が生じたとき、動詞の後の目的語O(動作対象)を処置マーカー(上海語では“拿”)でマークし述語に前置させ、[DIS +O+VR](DIS=処置マーカー、R=動作行為の結果性を含む結果補語や方向補語、形容詞、動量詞など)で表わされる構文にする。[DIS +O+VR]を中国語学では、処置構文(disposal construction)という。

4) 主題化文とは、徐烈炯・邵敬敏([Xu & Shao]1998:82)の“话题句”に相当する。上海語の再述代名詞が主題化文で用いられた例を挙げる。“迭样物事，我要攞脱伊。”(このような物、捨

ててしまいたい。[Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998:80(5))。上海語は他に、処置マーカー “拿” でマークされた目的語に再述代名詞が用いられた例 “拿箱子拿伊打开。” (箱を開けて’ [Daxi] 大西 2001:118(58)) や、“拿” の後と述語動詞の後の両方に用いられたものもある (例: 衣裳依拿伊汰清爽伊。‘服をきれいに洗いなさい’ [Jiana] 加納 2007)。粵語の再述代名詞が主題化文で用いられる例は、“啲啤酒饮晒佢啦。” (これらのビール、全部飲みましょう！ [Mai] 麦 2003) である。

5) 再述代名詞は3人称代名詞に限定され、1, 2人称代名詞は存在しない。

6) 一般に特定の事物に動作行為を行い、それに何らかの状態変化を及ぼすことを述べる場合、共通語や上海語では特定の事物は、動詞述語の前に置かれる。一方粵語は、そのような事態を述べる場合であっても処置構文ではなく、SVO (主語+述語+目的語) の語順をとる (Cheung 1992:285、[Liu] 劉丹青 2000:13-15)。インフォーマントによれば、再述代名詞はSVOのOの後に置かれるものが最も一般的であるという。このタイプは上海語にはない。

7) 上海語については、本稿筆者がインフォーマントに確認した。粵語に関してはMan (1998:54) に “Only the pronoun used with animate referents inflects for plural.” という指摘がある。

8) ただし以下の例で示すように、上海語は複数の人を表す名詞 “伊点坏人” (あれらの悪人たち) を先行詞とした場合、再述代名詞は稀に単数形で受けることもあるようである。

[上] 我 要 拿 伊 点 坏 人 杀 脱 伊拉/伊。
1SG want DIS that CL_{PL} bad people kill-COMPL 3PL 3SG
‘あれらの悪人たち、殺したい!’

粵語は、複数の人を照応する再述代名詞は通常複数形のみが許容される。

[粵] 呢 啲 坏 人 我 想 杀 咗 佢哋/*佢。
 that CL_{PL} bad people 1SG want kill-PERF 3PL 3SG
‘あれらの悪人たち、殺したい!’

9) インフォーマントは主に以下の方々である。

上海語：王英輝さん (20代後半)、劉芸琪さん (20代半ば)、李佳樑さん (20代半ば)
粵語：郭文灝さん (30代半ば)

10) 徐烈炯・邵敬敏 ([Xu & Shao] 1998:85 (53)) に再述代名詞は已然文に用いることができないことを示す例があるが、事態実現を表す文末助詞 “勒” を含まないなどテストとして問題があるため、本稿で改めて例6を示した。

11) Man (1998) は更に “知道” (知っている) など認識動詞の補文内でも再述代名詞が用いられないことを述べているが、factiveとassertedを混同していると思われる。

12) 遠藤 ([Yuanteng] 2004:66) は、沈家煊 ([Shen] 2002:387) が「処置構文の構文的意味は『主観的処置 (主観処置)』 (話者が、主語が目的語に対してある処置を行うことを主観的に認めること) であるが、処置構文が多用されると主観性の度合いが弱くなる」と指摘していることを受けて、上海語の再述代名詞は主観性の減衰を補うために用いていると述べている。しかし、この説明では、再述代名詞がなぜ已然文に用いることができないのかという問題を解決できない。

13) 徐烈炯・邵敬敏 ([Xu & Shao] 1998: 83-84) は、三項動詞を用いた文に再述代名詞が生起でき

- 46 -

の例に見られる3人称代名詞“佢”は省略することができない。この“佢”と再述代名詞の関係に関する考察は今後の課題としたい。

21) 本稿が言う「他動性」とは Hopper & Thompson (1980) の意味的他動性の定義による。Hopper & Thompson (1980) によれば、結果補語が付加されると限界性を持ち、他動性が高くなる。

22) 上海語と粵語の事物を先行詞とする再述代名詞を含む文の特徴を、以下の表にまとめて示す。

	上海語	粵語
再述代名詞を含む構文のタイプ ＝行為指向性を持つ	処置構文、主題化文	処置構文、主題化文、 SVO 文 (O は特定)
受動構文における再述代名詞の有無	×	×
動詞述語に限界性を持つ	△ (必ずしも持たない)	○
主語 (動作主) の意図性	○	○
非現実ムード性	○	○
自動詞述語＋非指示的3人称代名詞	○ [VV (R) 伊]	○ [VR 佢]

参考文献

〈日本語〉

太田辰夫 1958.『中国語歴史文法』, 東京: 江南書店。

加納功 2008.「上海市区方言における指示対象を持たない「伊」」,『現代中国語研究』10, 109-117 頁。

木村英樹 1981.「「付着」の“着/zhe”と「消失」の“了/le”」,『中国語』, 24-27/12 頁, 東京: 大修館書店。

木村英樹 1996.『中国語はじめの一步』, 東京: ちくま新書。

木村英樹 2000.「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」,『中国語学』247, 19-39 頁。

許慧 2005.「中国語(武漢方言)における特殊人称代名詞“它”の用法」,『日本中国語学会第 55 回全国大会予稿集』, 148-152 頁。

小嶋美由紀 2009.「拡張的二重目的語構文の成立動機とメカニズム」,『中国語学』256, 122-140 頁。

佐藤直昭 2003.「虚指の“伊”——上海方言“伊”に関する一考察」,『開篇』22, 235-244 頁, 東京: 好文出版。

野矢茂樹 1999.『哲学・航海日誌』東京: 春秋社。

森山卓郎 2000.「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」,『モダリティ』, 東京: 岩波書店。

〈中国語〉

[Chen] 陈法今 1992.〈泉州方言的述补结构〉,《方言》第 3 期, 181-185 頁。

[Daxi] 大西博子 2001.〈上海話的“拿”字句〉,《中国語学》248, 108-122 頁。

[Hou] 侯小英 2007.〈梅县方言德“知[tɿ⁴⁴]”字句〉,《中国語文研究》第 2 期, 23-31 頁。

[Jiana] 加納 功 2007.〈“無指代詞”與“處置性代詞”〉, 國際中國語言學學會第十五屆年會提要。

[Fan] 范可育 1988.〈宁波話“绳(依)缚其牢”格式〉,《吴语论丛》, 292-296 頁, 上海: 上海教育出版社。

- [Li 他] 李新魁・黄家教・施其生・麦耘・陈定方 1995. 《广州方言研究》，广州：广东人民出版社。
- [Liu] 刘丹青 2000. 〈粵語句法的類型學特點〉，《亞太語文教育學報》第3卷第2期，1-29 页。
- [Mai] 麦耘 2003. 〈广州话以“佢”复指受事者的句式〉，《第八届国际粤方言研讨会论文集》，515-524 页。
- [Xu & Shao] 徐烈炯・邵敬敏 1998. 《上海方言语法研究》，上海：华东师范大学出版社。
- [Xue] 薛凤生 1994. 〈“把”字句和“被”字句的结构意义—真的表示“处置”和“被动”？〉，戴浩一・薛凤生主编《功能主义和汉语语法》，34-59 页。北京：北京语言学院出版社。
- [Yuanteng] 遠藤雅裕 2004. 〈漢語方言處置標記的地理分布與幾種處置句〉，《中国语学》251，56-73 页。
- [Zhang] 张双庆 1999. 〈香港粤语的代词〉，李如龙・张双庆主编，《（中国东南部方言比较研究丛书）代词》，广州：暨南大学出版社。

〈英語〉

- Bybee, Joan, Revere Perkins, and W. Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Cheung, Samuel Hung-nin. 1992. The pretransitive in Cantonese, 《中国境内語言暨語言學》1: 241-303.
- Hopper, Paul J., and Sandra A. Thompson. 1980. Transitivity in Grammar and Discourse. *Language* 56-2: 251-299
- Matthews, Stephen & Virginia Yip 1994. *Cantonese: A Comprehensive Grammar*. London: Routledge (千葉英一・片岡新訳 2000. 《広東語文法》。東京: 東方書店)
- Man, Yuk-Hing Patricia. 1998. Postverbal KEOI as a marker for nonasserted bounded clauses. In Stephen Matthews, (ed.), *Studies in Cantonese Linguistics*, 53-62. Linguistics Society of Hong Kong.
- Xu, Lie-jiong. 1999. A special use of the third person singular pronoun. *Cahiers de Linguistique Asie Orientale* 28: 3-22.

付記

本稿は2009年3月東京大学大学院に提出した課程博士論文の一部を加筆・修正したものである。本稿の執筆に関しては、査読の先生方から大変有益なご助言をいただいた。この場を借りて、心より感謝致します。

また本研究は平成20年度-22年度（予定）文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）（研究課題番号：20720103）による成果の一部である。